

Enhavo .....	1
皆で語ろうエスペラント.....高木日出喜 .....	2
藤本達生のエス文法教室.....藤本達生 .....	4
誰でもここからエスペラント .....	入宿 匠 .....
8	
海外特派員ページ .....	バルバラ・ピエトシャック .....
11	
エスペラント脱初級講座.....丹後 学 .....	14
藤本達生の続きもので読みもので .....	藤本達生 .....
16	
千個の単語も一個から...EPA rekomendas .....	20
海外特派員ページ .....	ジェレミ・ギシュロン .....
22	
EPA事務局便り .....	28
Lasu al mi ion diri .....	32

2006年3月 新規・継続会員

新規

普通会員：四方夏樹、ユージニ・アーマン（京都）、家口美智子（兵庫）

学生会員：上山佐保（富山）、岡尾貴子（大阪）

Multan dankon kaj  
bonan kunlaboron!

継続

普通賛助会員：渡辺正（石川）

普通会員：山足愛子（岡山）、長友邦明、石渡和子（神奈川）、塩谷誠、仲田勝彦、  
小西美佐子（兵庫）、佐伯澄子（大阪）、白石則子（愛媛）、谷本嘉代子（東京）、  
佐藤布美子（北海道）、堀田嘉男（三重）、美馬啓子（徳島）、及川暎子（岩手）、  
福多愛子（京都）、西野孝子（滋賀）、隅澤聰（京都）

家族会員：塩谷恭子、仲田敬子（兵庫）

表紙の解説（Klarigo pri kovrila bildo）

出口 瑞（DEGUĈI Micugi）

「光を抱く」"Brakumi Lumon"

## 皆で語ろうエスペラント

### エスペラントの縁（えん）

高木 日出喜 大本 大道場次長

エスペラントを講習で初めて学んだのは中学生の時。日本大会が亀岡で開かれた後であったと思う。

その時、一緒に受講した仲間の中では裕大福、松永梅男という現在の大本エスペラント界ではベテラーノの面々も居た。

もっとも裕氏などはもうすでに「ペラペラで」講習会場たる大本・天恩郷は隅から隅まで知悉しており、自由自在に伸びやかに振舞っていたのを半ば羨望の念で眺めていたのを思い出す。

他の顔ぶれにも老若男女入り混じり、会場・瑞月舎は和気藹々としており、講習とは言うものの、エスペラントの持つ雰囲気は別物だな、と感じた。この一種独特のムードは現在の講習などにも共通してあるのではないかと思う。

10代で新しい言語を学ぶと、頭脳が柔軟なので、単語などでもいまだに憶えている。しかし現在、新しく単語を憶えようとしてもなかなか記憶できない。だから40年以上前に頭に入った単語は今も残っていない。

しかも学校教育の弊害（？）からか文法にアレルギーのようなものがあり、とても簡単であるにも拘らずエス語文法は苦手としている。

昨年もアテリオさんというヨーロッパから見えたエスペランティストの型破りな講習を久しぶりに受けたが、楽しかったという感想のみが残っていて、単語記憶容量や文法は相変わらず増えてはいない。

そんな小生がエスペランティストと出会ったりして、しゃべらざるを得なくなる度に自称するのが「エテルナ・コメンツアント」。

意味するところは「永世初心者」のつもりだが、実際に正しい言い方なのかどうかを確かめないまま、時折、口をつけて出してしまう。



## 皆で語ろうエスペラント

さて先に紹介した裕さんとは後に大本梅松塾同期生としてまたまた出会うことになった。同期には彼以外にも個性豊かな連中が居た（現在も多く残る）。

その当時の塾では、エス語と英語は選択制であり、小生はエス語をとらずに英語クラスに所属した。

その理由ははっきり覚えてはいないが、講師に外国人が来られていたのが魅力で選択したのか・・・と言っても頻繁に交代した講師陣には英語をネイティブとしない、チト怪しげな人も居たが、まちがいなく気楽な授業であったことはエス語講習と同様であった。

そんな塾生活のある日、エスペラントの関西大会に参加することが決まった。そして弁論大会出場（確か弁士は鹿子木氏）や、全員でエスペラント劇を演ずることになり、英語クラスではあったが、我々も加わってのエスペラント劇「白雪姫」の企画・上演とあいなった。

主演の「姫」はモチロン、同期生みなが認める色白（？）の最年長者・楠田真人氏で、他のものは7人の小人やなんやら、とにかく登場人物は多くても十分な人員が居た。

実は配役が多い方が一人一人の覚えるセリフは少なくて済んだのである。

会場・関西大学での上演後の反響の大きさは我々出演者の予想をはるかに超えるものであった。

大会参加者が口々に感想・質問をぶつけてくるが、全てエスペラント。

代表答弁者として裕氏を前面に立てて、ひたすら「コメントアウト」を連発していたが、劇中では全員が「立派に」エス語を使っていたものだから、なかなか信じてもらえない。冷や汗ものの体験もいまは懐かしい思い出である。

今も残っているその劇でのセリフ「ミ ペンサス（ケ）シ エスタス プリンツィーノ。Mi pensas, ke ŝi estas princino.」

「ネジュリーノ～Neĝulino（白雪姫）！」

その「プリンツィーノ・ネジュリーノ Princino Neĝulino」を現在、姫ならぬ長として職場を共にしているのも引き続き縁である。

L'esperanto de la 1910-aj jaroj

## 藤本達生のエス文法教室

### PLENA GRAMATIKO DE ESPERANTO

#### いわゆる 16 カ条の文法について

講師 藤本達生

4月号の続き。

#### 2) の 3

Kazoj ekzistas nur du: nominativo kaj akuzativo; la lasta estas ricevata el la nominativo per la aldono de la finiĝo n.

格は二つだけ存在する。名格（主格）と対格（目的格）である。後者は名格から語尾の n を付けることで得られる。

Tomato, monto は名格ないし主格だが、これに語尾の n をつけ、tomaton, monton, とすれば対格または目的格となる。n の日本語の代表的な意味は「を」である。

Tio estas tomato. それはトマトです。

Mi havas tomaton. 私はトマトを持っています。

そのほか、n には別の働きがあるが、別にあつかう必要がある。

#### 2) の 4

La ceteraj kazoj estas esprimataj per helpo de prepozicioj. その他の格は前置詞の助けによって表現される。

先に格は二つしかないと言っておいて、すぐ、すまして「その他の格は・・・」と言っている。対格は語尾にくっついて tomaton のようになるが、他は別にして前置詞が格の働きをする。

#### 2) の 5

(la genitivo per de, la dativo per al, la ablativo per per, aŭ aliaj prepozicioj laŭ la senco.)

属格は de によって、与格は al によって、奪格は per によって、または意味にしたがい他の前置詞によって。

## 藤本達生のエス文法教室

ここは格の名前をおぼえるより、前置詞それぞれの意味、用法をおぼえた方がよい。

De Kameoka al Kioto. 亀岡から京都へ。

Mi skribas per kraĵono. 私は鉛筆で書きます。

La titolo de mia libro. 私の本のタイトル。

### 3) の 1

La adjektivo finiĝas per a.

形容詞は a で終わる。

Bona よい、bela 美しい、rapida 速い

### 3) の 2

Kazoj kaj nombroj kiel ĉe la substantivo.

格と数は名詞におけると同様。これは名詞に調子を合わせるということで、次のようになることを言っている。

Bela tomato, belaj tomatoj, belajn tomatojn

(美しいトマト、複数の美しいトマト、複数の美しいトマトを) つまり、形容詞にも n がつくわけである。

### 3) の 3

La komparativo estas farata per la vorto pli, la superlativo per plej.

比較級は pli という単語でなされ、最優級は plej による。よりよい等の「より」が pli であり、「もっとも」速い等のもっともが plej である。

Pli bela より美しい、plej bela もっとも美しい等。

## 藤本達生のエス文法教室

### 副詞の使い方(2)

講師 藤本達生

#### Nun と Nur

日本人はエスペラントで話している時でも実は日本語で話している。単語や文章はエスペラントでもその心は日本語、というわけである。たとえば、よく聞く表現に、

De nun . . . というのがある。「今から」の意である。これ自体間違いではないが、このままだとそうなる。

de ( ~ から ) と言ったら、ĝis ( ~ まで ) がいる。

Mi forestos de nun ĝis la tria horo.

私は今から 3 時まで留守にします。

× De nun mi foriros.

私は今から帰ります。この際、からはなくてよろしい。

Nun mi foriros.

今 ( から ) 帰ります。これでよろしい。

次は、nur nun について。

これには、いまだけ、という意味と、いま初めて、という意味がある。

Nur nun mi estas ĉi tie, sed baldaŭ mi foriros.

いまだけはここに居ますが、間もなく立ち去ります。

Nur nun mi komprenis iom la gramatikon de Esperanto.

いま初めてエスペラントの文法がいくらわかりました。

次は、Jam と Ankoraŭ

Mi estas ankoraŭ kvardekjara.

私はまだ 40 歳です。

## 藤本達生のエス文法教室

Mi estas jam kvardekjara.

私はもう（すでに）40歳です。

もうはまだなり、という言葉があるが、同じことを言っても評価がちがう。

En la botelo restas ankoraŭ duono da vino.

ボトルにはまだ半分のワインが残っている。

En la botelo restas nur duono da vino.

ボトルにはワインは半分しか残っていない。

ここでは、jam でもいいが、nurの方がハッキリする。

Li alvenos jam hodiaŭ.

彼はもう今日は到着するでしょう。

Li alvenos ankoraŭ hodiaŭ.

彼は今日のうちにも到着するでしょう。

次は Tuj と Ĵus

Tuj antaŭ miaj okuloj

私の目の前すぐの所に

Mi tuj venos al vi.

私はすぐに参ります。

Tuj poste venis la cunamo.

津波はすぐ後で来ました。

Tuj antaŭ la manĝo li malfermis botelon de vino.

食事のすぐ前に彼はワインのビンを開けた。

Ĵus mia edzino eliris fari aĉetojn.

妻は買い物に出かけたところです。

なお、Δs antaŭ la manĝo とは言わない。

Ĵusでなく、Tuj antaŭ la 14a de februaro mi aĉetis ĉokoladojn.

2月4日のすぐ前に私はチョコレートを買った。

のように言うのがよい。

## 誰でもここからエスペラント 入宿 匠 (T.Ilijado)

初めてエスペラントに触れる皆さんは、このページから始めましょう。すぐに使えます。何ということはありませんよ。10分もすれば、とりあえず挨拶等は出来るようになります。

会話では、必ずしもローマ字は必要ありません。触れること、使うことが大切です。3ヶ月毎に内容を更新します。つまらなくなったら、本誌講座におすすみ下さい。カタカナでも良いのですが、いかにも...って感じになりますので止めました。場合によっては漢字もアリですが！

### 1：挨拶

さるーとん	やあ！（こんにちは）
ぼーなんまでーのん	おはようございます
ぼーなんたーごん	こんにちは
ぼーなんべすペーろん	こんばんは
ぼーなんのくとん	おやすみなさい
ぢすれびーど	さようなら
だんこん	ありがとう
ぱるどーのん	すみません



もう一度上を見て下さい。そして、口に出してみる。太字を強く読みます。それぞれ途中で休まず、一気に言って下さい。

さて、「ぼーな」は「良い」です。次に出てくる「までーのん、たーごん、べすペーろん」はそれぞれ「朝、昼、夜」ということを表しています。「のくとん」は夜中の事を指しますので、「良い夜中を...おやすみ！」となるわけです。ちなみに、「いい夢見ろよ！」は「ぼーなんそんぢょん！」となります。

「さるーとん」は時間に関係なく使えます。年齢性別に関わらず、誰でもおなじです。...とは言っても気軽すぎてチョット遠慮してしまう、と言うときは、時間に合わせて「ぼーなん...」を使いましょう。いずれも、時所位に応じて、元気に言ってみましょう。エスペラントは人工語だから、ロボットのように話すのか...、と勘違いしている方も時々居ます(笑)。さあ、気持を込めて、言ってみましょう。「こんにちは」と同じ気持で「さるーとん」と言うのですよ！



<とにかく口に出して言ってみる、使ってみる>

## 挨拶 2

さるーとん

みあのーも えすたす“(貴方の名前を入れる).”

みーとれぢょーやす びーでい びん

だんこん (ごすれびーど)

「みー」は私。「みあ」は「私の」。「のーも」は名前。「えすたす」は動詞(です、だ)。「とれぢょーやす」で「とてもうれしい」。「びーでい」は動詞(見る、会う)。「びん」は「君(あなた)に」。

最も短い「自己紹介」です。自分の名前をいれて言ってみて下さい。太字を強く読むのは同じですが、単語一つ一つのアクセント(強く読む)ではなく、文章の流れを考えて付けてあります。

これを覚えりゃ何とかなる!!

きーええすたす {ねつえせーよ} トイレは何処ですか?

ていーええすたす {ねつえせーよ} トイレはあちらです

ちゅていーえ えすたす {ねつえせーよ} トイレはあちらですか?

いえす、ていーええすたす {ねつえせーよ} はい、トイレはあちらです

きーえび なすきーぢす 何処で貴方は生まれましたか?

えん {きおーと} みなすきーぢす 京都で私は生まれました

先程と同様に、太字を強く読んで下さい。気持ちを込めてですよ!「ぶっきらぼう」に言えばそれなりに、また、心を込めて言えばちゃんと「心」が伝わります。「やく」は分かり易い様に「堅い言い回し」にしています。

次に、{ねつえせーよ}とカッコしてあるところを下の単語と入れ替えて使ってみましょう。場所を表す単語と人・モノが入ります。ちなみに、「きーえ」は日本語の「何処?」にあたります。日常生活で「使えるエスペラント」のススメです!独り言もOKです。外食したあと、ありゃ?お金がない!...と思ったら「きーええすたす みあもーの」と言ってみましょう。(「み でじーらす へるぼん」...ですね:前号までを参照!)

すたちーお:えき なじえーよ:プール ばねーよ:おふる どーも:いえ

あくつえぶてーよ:うけつけ れすとらつゐーお:れすとらん

おふいつえーよ:じむしょ れるねーよ:がっこう べんでーよ:おみせ

(誌面の都合により場所を示す単語だけに絞りました)

## 覚えた人はこれもヤル!!

さて、本誌入門講座や、「辞書が無くても学べるエスペラント語入門 改訂版：EPA 編）等に進む方は、ここで軽く予習をしておきましょう。

1：おもしろあるふぁべーと

エスペラントではアルファベットを「あるふぁべーと」と言います。こちらも更新しました。間違いやすいところに焦点を絞りました。特に意味はありません（笑）。子音の発音の仕方をこれで覚えて、下にあるように「うおあえい」と母音を付ければ良いはず...!?

	ci	cu	ce	ĉa	ĉi	ĉu	di	fi	ga	gi
匠式：	追	津	杖	茶	地	中	D	不意	蛾	疑
かな：	つい	つ	つえ	ちゃ	ち	ちゅ	でい	ふい	が	ぎ

	ĝa	ĝi	je	Δu	se	ŝa	ti	tu	zo
匠式：	チャ	痔	家	受	吸え	社	ティー	トゥー	図を
かな：		ぢ	いえ	じゅ	スえ	しゃ			ズお

2：エレガントに話そう

話の内容ではありません（笑）。口の筋肉を解きほぐしながら、エスペラントの文法を勉強できる方法です。すぐに試してみましょう！

まずは口を思いっきりとがらせ、次のように次第に口を開けていき、最後は「い～！」と大きく横に開きます。ゆっくり、一息でやります。

う～お～あ～え～い～ U O A E I

声は出しても出さなくても結構です。これを10回やってから、先ほどの挨拶をやきましょう。ほら！ハッキリ発音できるようになったら、かる～いタッチでエスペラントを使うことができますよね。

さて、余裕が出てきたら次のことを思いだしながらやってね。ほとんどの単語はこれでカバーできます。エスペラントが外の言葉より覚えやすい...と言われる所以です。先ほどの単語のページを見て下さい。

う U：動詞には活用があることの象徴。まんじゅ（食べなさい）、いーる（行きなさい）

お O：モノの名前（名詞）はOが最後に付く。ばなーの、のーも、ふいーしょ

あ A：どんな（形容詞）は最後がAで終る単語。るーじゃ（赤い）、ばるま（熱い）

え E：Eで終る単語は～して（副詞）、らびーで（急いで）、ぼすて（あとで）

い I：Iで終る単語は動詞の原形。まんじ（食べる）、いーり（行く）

動詞は重要ですから2回出ています。一口で6回美味しい練習法です！

興味が出てきたら読む本「啓蒙と前戯 エスペラント会話の達人」

（天声社、又は「ISBN 4-88756-055-9 C-0080 ¥1524E」お近くの書店で注文してね）

Barbara Pietrzak

Estimataj! Unue, permesu al mi transdoni al vi miajn plej varmajn salutojn, kiujn mi portas al vi el mia hejmlando, Pollando. Nur antaŭ tri monatoj mi havis la bonŝancon esti en Japanio, viziti mallonge Ajabe kaj kunpartopreni kun vi en Kameoka la gravan jubileon de la okdekjariĝo de EPA de Oomoto. Kvankam mi kiel esperantistino bone sciis, kio estas Oomoto - dank al via revuo kaj la kunvenoj de Oomoto dum la Universalaj Kongresoj de Esperanto - la vizito en tiuj ĉi du centroj ebligis al mi "tuŝi" la pulsantan koron de Oomoto, sperti la ĉiutagan ritmon de via vivo, korvibre senti la devizon "Unu Dio, unu mondo, unu lingvo".

Mi malkovris, ke Esperanto estas ĉe vi la realo, ke inter niaj geaŭskultantoj en la tuta mondo multaj estas Oomotanoj. Apartan impreson lasis ĉe mi la edifaj vortoj de la Kvina Spirita Gvidantino de Oomoto, DEGUCHI Kurenai en perfekta Esperanto, kiun mi kun profunda fiero prezentis en nia esperantlingva programo je kiu reagis aŭskultantoj ne nur el Japanio, sed ankaŭ el tiaj landoj kiel Ĉeĥio kaj Francio.

La vizito en Japanio kaj inter vi fariĝis por mi tre grava vivosperto, kiun mi ne antaŭsentis. Tamen eĉ en la plej kuraĝaj revoj mi ne supozis, ke mi povos reveni tiom baldaŭ, ke mi povos partopreni la Secubunan Feston de Oomoto. Kun tremanta koro mi estas inter vi kaj mi antaŭsentas, ke tiu ĉi festo ankoraŭ pli profunde ebligos al mi kompreni, ke fronte al Dio ni estas kunfratoj en granda homa familio, ke Bona Dio gardas ĉiun homon kiu sincere deziras protekti la puran animon kaj progresi en la saĝo de Liaj instruoj. Oni diris al mi, ke la Secubuna Festo de Oomoto estas la ceremonio por purigi la landon kaj la Universon, mi scias, ke ĝi estas datreveno de via Revelacio. Estas por mi honoro esti inter vi dum tiu ĉi festo.

Mi mem laŭ mia konfeso estas rom-katolikino kaj kun granda respekto mi aŭskultas la instruojn de mia Eklezio. Kun granda ĝojo mi observas la senĉesajn klopodojn de nia Papo, Johano Paŭlo la Dua favore al la ekumena dialogo, favore al la interreligia dialogo. Mi fieras estante polino, ke la pola Papo lanĉis tiun dialogon per la unika en la historio de la Eklezio **interreligia renkonto en la itala Asizo. Sed kio ankoraŭ pli gravas: tiu ĉi**

dialogo daŭras! Estante esperantistino kun aparta ĝojo kaj intereso mi legis en "Oomoto"-revuo, ke tiun ĉi interreligian dialogon partoprenas ankaŭ reprezentantoj de via religio. Tio por mi konfirmas la veron de via mesaĝo - "Unu Dio, unu mondo, unu interlingvo", kiun mi povas konsideri la propra, kio ne malhelpas al mi fideli al mia religia doktrino.

Unu lingvo! Permesu al mi dividi kun vi ankoraŭ kroman rimarkon. Kiel mi jam diris profunde kortuŝis min la edifaj vortoj de la Kvina Spirita Gvidantino de Oomoto DEGUCHI Kurenai en belega Esperanto. Eble ne ĉiuj el vi scias, ke ankaŭ Papo Johano la Dua uzis Esperanton alparolante dufoje la gejunulojn de la mondo, kiuj rendevuis en la pola pilgrimloko Ĉenstohova, ke li mesaĝis en ĝi al la kunvenintaj sur la Placo de Sankta Petro en Romo esperantistojn, ke dufoje li ĉiujare siajn benajn vortojn peras - okaze de Pasko kaj Kristnasko, inter aliaj lingvoj ankaŭ en Esperanto! Ĉu do vian devizon "Unu Dio, unu mondo, unu interlingvo" mi povus ne rekoni la propra?

En tiu ĉi spirito mi partoprenas la Secubunan Feston kaj dankas al ĉiuj dank' al kiuj tio ĉi povis realiĝi, en tiu ĉi spirito mi esperas dividi mian partoprenosperton post mia reveno al Pollando dum publikaj renkontoj, kaj ankaŭ en nia programo.

Sed nun permesu al mi ankoraŭfoje rediri miajn vortojn de profunda kortuŝo kaj feliĉo, ke mi denove povas gastigi en Oomoto. Koran dankon!

3an de Februaro, 2004

**バルバラ・ピエトシャック**

まず初めに、私が故郷ポーランドから持ってきました心からの挨拶を皆様方に申しあげたいと思います。わずか3か月前私は日本に滞在する機会に恵まれました。綾部にも短い期間ですが滞在し、亀岡ではエスペラント普及会 80周年記念行事にも参加させていただきました。もちろんエスペランチストとして大本の事は知っていました。エスペラントの雑誌やエスペラント世界大会での大本分科会のおかげです。しかし、昨年 of 大本訪問によって大本の神髄に触れ、大本での日々のリズムに触れ『一つの神』『一つの世界』『一つの言語』というスローガンの琴線にふれました。

エスペラントは皆様にとって現実のものであります。世界で我々のエスペラント放送を聞いてくれている人たちの中には多くの大本のエスペランチストがおられます。大本五代教主出口紅様の完璧なエスペラントでの素晴らしいお言葉が印象に残っています。その御挨拶をエスペラントで放送し、大きな反響

を得た事に私自身誇りを感じています。反響は日本からだけではなく、チェコ、フランスといった国からも届いています。

日本で皆様方と交流する事は、私にとって以前には予期しなかった大切な人生体験であります。しかし、こんなに早く大本にもどり、節分大祭に参拝できるとは想像も出来ませんでした。驚きの気持ちで、次の事を予感しています。今回の参拝によってより深く次の事を理解する事になるでしょう。『神の前では私達は人類大家族のなかの兄弟であること』『善良の神は清い魂を守り、神の教えの素晴らしさのなかで成長する人をお守りになるのです。』大本の節分祭は国、宇宙の潔斎であると聞いています。また、節分は大本開教の大事な日であることを知りました。皆様と共にこのような意義ある祭典に参拝できますことを名誉に思います。

私自身、ローマカトリックの信者で、大いなる敬意をもって教会の教えに耳を傾けています。大きな喜びを持ち、私は教皇パウロ2世の絶えまない努力に従うのです。教皇は、エキュメニカル対話、宗際対話に対して積極的に取り組まれています。ポーランド人としてポーランド人の教皇がイタリアのアシジでの宗際会議を招集され、宗際対話を始められたことを誇りに思います。しかし、より重要な事はその対話が今も継続されている事です。皆様方の代表がこのような宗際対話に参加されていることを、エス文大本で興味をもって知る事はエスペランティストとして大きな喜びです。大本のメッセージである『一つの神』『一つの世界』『一つの国際語』が真実である事を確認出来るのです。しかしそのことによって私は自分の宗教への信念がゆらくことはありません。

一つの言語。もうひとつお話したい事があります。先程すでに述べたように、私は大本五代教主、出口紅様の美しいエスペラントとそのすばらしいお話に深く感銘しました。御存じでない方もおられるかもしれませんが、教皇パウロ2世もエスペラントを使われます。ポーランドの巡礼地であるチエンストホーバに集まった世界中の若者に対して2度エスペラントで話し掛けられたのでした。ローマの聖ペテロ寺院の広場でエスペラントチストの参加者にエスペラントでメッセージを送られました。毎年2回復活祭、クリスマス、にその他の言語と共に、エスペラントで祝福の言葉を伝えられます。本当の意味で『一つの神』『一つの世界』『一つの言語』を認識しているのです。

以上のような気持ちで私は節分大祭に参拝しております、この事を可能にさせていただいた皆様に感謝申し上げますと共に、この体験を是非ポーランドにもちかえり私の番組でも紹介させて頂くつもりです。

もう一度今回再び大本に参拝し、皆様と御会い出来ました事に対して心より感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。(訳: 矢野 裕巳)

# Tango Manabu

エスペラント脱初級講座 「Ni kutimiĝu Esperanton!」  
講師 丹後 学

## 【ju pli...des pli...】

Nia paĝaro ricevis la rajton enpaĝigi kaj disponigi al siaj membroj kaj uzantoj la valoran kaj por instruistoj kaj por lernantoj tre utilan gramatikan helpilon. Ju pli personoj konas kaj uzas nian paĝaron, des pli larĝan publikon ni povas bone servi.

paĝ + ar + o : ページの + (集まり) disponigi : (人・物を)自由に使わせる  
diskonigi : 知れ渡らす ju pli...des pli... : ~すればするほど、ますます  
~

## 【-us】

Estus interese scii kiom da paĝoj estas en Esperantujo nun kaj kompari tra la jaroj. Ĝis hodiaŭ aperis proksimume 170 originalaj verkoj, kiujn eblus nomi romanoj. Ili enhavas sume 30, 000 paĝojn, kaj li taksas ilian suman amplekson je pli-malpli dek milionoj da vortoj.

tra : (時間的に) ~中(じゅう)等 sumo : 合計(相撲は、"sumoo")  
taksi : 評価する("taksio"が、タクシー) amplekso : (内容の)広さ・大きさ等  
pli-malpli : 多かれ少なかれ

## 【kompetenta】

Pri la paĝaro okupiĝas pluraj dekoj da homoj, kaj la paĝaro nuntempe ekzistas en 24 lingvoj. La paĝaro de "lernu!" ricevas pli ol 30.000 vizitojn monate, kaj kutime registriĝas dudeko da novaj uzantoj ĉiutage. La paĝaro ekzistas jam de pli ol du jaroj, sed ĝi baldaŭ moderniĝos, kaj por tio bezonas pliajn kompetentajn helpantojn.

okupiĝi : 従事する・気を取られる・注意をひかれる  
kompetenta : 有能な・(情報など)信頼すべき等

和訳

### 【ju pli...des pli...】

私たちのページは、会員と使用者に、価値があり、そして、教える側にも学ぶ側にもとても役立つ文法の参考書を 編纂、自由に使わせる権利を受けました。いろいろな人が、私たちのページを知って使えば使うほど、幅広い人々に私たちが役立つこととなります。

これは、エス文法冊子のインターネット公開の文からです。(“ <http://edukado.net/> ”) 6月末までとのこと。

“ju pli・・・des pli・・・”は一語一対の訳にはならないので、慣れるしか仕方ないですが、エスペラントをすればするほど、使う機会がますます増えるでしょう！

### 【-us】

エスペラント界で今何ページのものがあるか知り、何年間かを通して比較することは、興味の有ることでしょう。今日(こんにち)まで、小説と呼べる原作の作品がおよそ170出てきました。それらは、全てで3万ページを収め、多かれ少なかれ一千万語という量の多さがあることを、彼は評価している。

“～us”は、動詞の『条件法』といわれ、馴染みが《薄》いですが、「曖昧さ」というマイナスの意味でなく、単に「～かもしれない」ということを表すことが多いでしょう。よく使われるのは『丁寧さ』をあらわす“bonvolus”です。

小説だけでなく、各宗教のちょっとした物語・逸話の公開など、インターネットが活用されることを願います。

### 【kompetenta】

その(ホーム)ページには数十人もの人が携わり、現在24の言語で出ています。“lernu!”のページには、月に3万人以上の訪問があり、普通、日に20人も新しい使用者の登録があります。このページは、既に2年以上経っていますが、まもなく一新するので、そのためにより有能な協力者が必要です。

この文は、ホームページの改定前の文です。“tagovorto”(日々の単語)等、「TANGO Manabu」としては大変興味があります。

“kompetenta”を“kompatinda”と混同しないように!“Li estas kompatinda, ĉar li kredis ke ŝajne kompetenta informo estas vera.” 誌面の都合で訳せないのが、かわいそう？

## Migdalokula

En la pasinta monato mi skribis ĉi tie pri la migdalokuleco de Ŝizuka Arakaŭa. Iom poste mi legis reklamon de semajna magazino. La frapfrazo temis pri Ŝizuka, do mi tuj aĉetis la koncernan numeron. Laŭ tiutema artikolo, en Usono kaj precipe Novjorko, la ormedala ĉampioneco de Ŝizuka en Olimpiko forte malplaĉis al la homoj kaj gazetoj. Ekzemple, la prestiĝa Ĉiurnalno "New York Times" publikigis komentojn kontraŭ Ŝizuka.

Publicistoj aŭ kolumnistoj esprimis siajn negativajn opiniojn laŭ siaj kriterioj. Povas esti, ke ili objektivite tute pravas, aŭ ke ili estis iel Ĉiuluzaj kaj pro tio ili severe kritikis la japanan ĉampionon.

Ĉiukaze, estis la Ĉiarianoj, kiuj juĝis kaj donis la finan rezulton. Tamen aperis tiaj malŝataj opinioj kaj krome la prestiĝa Ĉiurnalno aperigis eĉ tian foton, kiu montras nur du ĉampionojn arĝente kaj bronze medalitajn sur la premia perono, sed kun neniu en la mezo. Oni povus diri, ke momente de la foto, ankoraŭ la tria kaj la lasta ne suriris la peronon. Sed, kutime oni ne agas tiel. Do, devus esti ia kialo. Tia malrespektema trakto je Ŝizuka probable kuŝis en ŝia migdalokuleco mem.

La migdalokuleco estas, en la okuloj de eŭropanoj, kvazaŭ vulpokuleco. Antaŭ longe, kiam mi vidis en la desegnaĉoj fare



## 切れ長の目をした

先月はここで荒川静香が切れ長の目をしていることについて書いた。少し後で週刊誌の広告を読んだ。キャッチフレーズは荒川のことだったので、その号をすぐ買った。そのテーマの記事によると、アメリカそして特にニューヨークではオリンピックで荒川が金メダルのチャンピオンになったことが、人びとや新聞にひどく嫌がられたようなのである。

例えば、しかるべき新聞の「ニューヨーク・タイムズ」は荒川に対する論評を載せた。

寄稿家またはコラムニストたちも自分らの規準による否定的な意見を公表した。この人たちが客観的に見てまったく正しいか、あるいは何らかの意味でやきもちをやき、そのせいで日本の選手をきびしく批評したということはあるかも知れない。

いずれにせよ、ジャッジをし最終的な結果を出した審査員たちがいた。それでもそのような軽く見る意見が出され、そして更には権威ある新聞は、銀と銅のメダルを得た二人の選手だけが表彰台にいて真ん中には誰もいないという、そんな写真さえも掲載した。

写真の瞬間にはまだ三人目の最後の方は台に上がっていなかったのだと言えるかも知れない。しかし、普通、そのようなことはしない。したがって何らかの理由がなければなるまい。

そのような、荒川をさげすんだような扱いは、おそらく荒川が切れ長の目をしているということ自体にあった。

切れ長の目ということは、ヨーロッパ人の目から見ると、あたかもキツネ目というようなものである。



Tacuo Huĝimoto: <<Felietone-feritone>>

de eŭropanoj ekzemple japaninojn kun migdalokula aŭ vulpokula fizionomio, mi tre miris. Kial, ili tiel, preskaŭ malice, desegnas?

De decembro 1968 ĝis aŭgusto 1969 mi unuafoje restis en Eŭropo. Kiam pasis jam kelkaj monatoj mi havis en Beogrado okazon spekti japanan filmon, en kiu rolis kelkaj konataj aktorinoj. En Japanujo mi vidis ankaŭ ilin sen aparta rimarko. Nun, en Beogrado, tuj mi rimarkis, ke tiuj ordinaraj japaninoj ŝajnis en miaj okuloj senescepte migdalokulaj aŭ vulpokulaj, nome iliaj eksteraj ekstremoj de la okuloj aspektis suprentiritaj.

Ĉar mi vidadis longe nur la eŭropanajn okulojn, miaj okuloj estis jam tiom alkutimigitaj, ke tuj ĉe la filmo la migdalokuleco falis al mi en la okulojn.

Tiel, mi komprenis, ke en la eŭropanaj okuloj ni japanoj aŭ similaj aspektas migdalokulaj, eĉ vulpokulaj. Tio signifas, ke la migdalokuloj estas per si mem malŝatindaj, almenaŭ ne respektataj.

Kaj en Torino, olimpike staris sur la pinto kun ora medalo en la flora sporto aŭ la figursketa konkurso tiu migdalokula Ŝizuka; bedaŭrinde, malgraŭ sia lerta tekniko kaj figura beleco, Ŝizuka kaŭzis ĉagrenon eĉ al la prestiĝa *Armano*. Ŝizuka ne respondecas pri sia migdalokuleco. Estus do preskaŭ rasa diskriminacio, se pro tio Ŝizuka estis rigore riproĉita en Usono.

ずっと以前、ヨーロッパ人によって描かれたものの中で、例えば切れ長の目をした、あるいはキツネ目の顔つきをした日本女性を見た時、大変おどろいた。何故、彼らはそのように、ほとんど意地悪と思えるように、描くのか。

1968年12月から1969年8月まで、初めてヨーロッパに滞在した。すでに数カ月がたった頃、ベオグラードで日本映画を見る機会があった。何人かの有名な女優が出演していた。日本ではこの人たちを特に何かに気づくこともなく見ていた。この時、ベオグラードですぐ気づいたことは、それらの普通の日本女性たちが、私の目には例外なく切れ長の目あるいはキツネ目、つまり目尻が上がっているように見えたことだった。

長い間、ヨーロッパ人の目だけを見つづけていたので、私の目はすでに慣らされていて、映画を見るとすぐ切れ長の目であることが目についたのであった。

そういう次第で、ヨーロッパ人の目には、われわれ日本人あるいは似たような人たちは、切れ長の目さらにはキツネ目とさえ見えるのだと理解した。その意味するところは、切れ長の目はそれ自身が好まれないこと、少なくとも尊敬はされないということである。

しかるにトリノでは、オリンピックで花のあるスポーツ即ちフィギュアスケート競技で、その切れ長の目をした荒川が金メダルを得て頂点に立った。

残念ながら、そのめざましい技術と姿勢の美しさにもかかわらず、荒川はあの威信ある新聞さえも当惑させることになった。

荒川は自分が切れ長の目をしていることに責任はない。もし、それゆえに荒川がアメリカできびしくとがめ立てされたとすれば、ほとんど人種差別ということになるのか。

## 千個の単語も一個から *NOVA VOJO rekomendas*

abon-	bat-	De	Esper-	fulm-	Infan-	Knab-	kuk-
Aĉet-	batal-	Decid-	esplor-	fum-	Inform-	kol-	kuler-
Adres-	baz-	defend-	esprim-	Funkci-	insekt-	Kolekt-	kulp-
Aer-	bedaŭr-	Dekstr-	Est-	fuŝ-	insign-	koler-	Kultur-
afabl	Bel-	Demand-	estim-		Instru-	Kolor-	Kun
Afer-	Best-	dens-	eventual-	gaj-	insul-	komb-	kupon-
Ag-	Bezonz-	dent-	evolu-	gajn-	inteligent-	Komenc-	kur-
agrabl-	bibliotek-	desegn-		gas-	intenc-	Komerc-	kurac-
Aĝ-	bicikl-	detal-	Facil-	gast-	Inter	komfort-	kuraĝ-
ajn-	bier-	Dev-	faden-	Gazet-	Interes-	komisi-	Kurs-
Akcept-	Bild	Dezir-	fajr-	glaci-	intern-	komitat-	Kuŝ-
akr-	bilet-	di-	Fak-	Glas-	Invit-	kompar-	kutim-
aktiv-	Bird-	diferenc-	Fakt-	glit-	Ir-	kompat-	kuz-
Akv-	blank-	difin-	faktur-	Grand-		Kompren-	kvadrat-
Al	blow-	Dik-	Fal-	gras-	Ja	comput-	kvalit-
Ali-	blu-	Dir-	fam-	gratul-	Jam	Komun-	kvankam
almenaŭ	bol-	Direkt-	Famili-	Grav-	Jar-	komunik-	kvant-
Alt-	Bon-	disk-	Far-	gren-	Je	Kon-	kvazaŭ
Am	bord-	diskut-	fart-	griz-	Jen	koncern-	
amas-	botel-	Divers-	Feliĉ-	Grup-	Jes	kondiĉ-	La
ambaŭ	bov-	divid-	Fenestr-	gust-	juĝ-	konduk-	Labor-
Amik	brak-	Do	fer-	gvid-	Jun-	konfes-	lac-
amuz-	Bril-	Doktor-	feri-		jup-	Kongres-	Lag-
angul-	bros-	Dolĉ-	Ferm-	ĝarden-	just-	konkret-	Lakt-
Ankaŭ	bru-	dolor-	Fest-	ĝen-		Konsent-	Land-
Ankoraŭ	brul-	Dom-	fiks-	Ĝeneral-	Ĵet-	konserv-	lang-
anonc-	brun-	domaĝ-	Fil-	ĝentil-	Δis	konsider-	larĝ-
Anstataŭ	brust-	don-	Film-	Ĝis		Konsil-	Las-
Antaŭ	buŝ-	donac-	Fin-	ĝoj-	kadr-	konsist-	Last-
aparāt-	buter-	Dorm-	fingr-	ĝu-	kaf-	konstant-	laŭ
Apart-	buton-	dors-	Fiŝ-	Ĝust-	Kaj	Konstru-	Lav-
aparten-		drat-	flag-		kajer-	Kontakt-	Lecion-
apenaŭ	Cel-	dub-	Flank-	ha	kalendar-	Kontent-	Leg-
Aper-	centr-	Dum	flav-	halt-	Kalkul-	Kontraŭ	legom-
Apud	Cert-	dung-	Flor-	har-	Kamp-	kontrol-	leĝ-
aranĝ-	ceter-		flu-	haŭt-	Kant-	konven-	Lern-
arb-	cigareted-	eben-	Flug-	Hav-	kap-	konvink-	lert-
Art-	cirkl-	Eĉ	Foj-	haven-	kapabl-	kopi-	Leter-
Artikol-		Eduk-	foli-	Hejm-	Kapt-	kor-	Lev-
Asoci-	Ĉambr-	Edz-	fond-	hel-	Kar-	korb-	Liber-
aspekt-	ĉapel-	efektiv-	font-	Help-	karb-	respond-	Libr-
atak-	Ĉar	efik-	For-	herb-	Kart-	corp-	Lig-
atend-	Ĉe	egal-	Forges-	Hieraŭ	Kased-	kort-	lign-
Atent-	Ĉef-	ekonomi-	fork-	Histori-	Kaŝ-	Kost-	lim-
ating-	ĉemiz-	ekskurs-	Form-	ho	kat-	kostum-	Lingv-
Aŭ	ĉes-	ekspozici-	Fort-	Hodiaŭ	Kaŭz-	kovert-	lini-
Aŭd-	ĉeval-	Ekster	fos-	Hom-	kaz-	kovr-	lip-
Aŭskult-	Ĉi	ekzamen-	Fot-	Hor-	Ke	krajon-	list-
Aŭtobus-	Ĉiel-	Ekzempl-	Frap-	horloĝ-	Kelk-	kre-	lit-
Aŭt-	Ĉirkaŭ	ekzerc-	Frat-	hotel-	kilogram-	Kred-	liter-
Aŭtomobil-	Ĉu	Ekzist-	fraŭl-	hund-	kilometr-	Kresk-	Literatur-
Aŭtun-		El	fremd-		kis-	kri-	Loĝ-
av-	Da	Elekt-	frenez-	Ide-	Klar-	Krom	Lok-
azen-	danc-	elektr-	freŝ-	ideal-	klas-	kruel-	Long-
	danĝer-	En	frost-	imag-	klin-	krur-	Lud-
Baldaŭ	Dank-	energi-	Fru-	imit-	klopod-	kudr-	lum-
ban-	Daŭr-	erar-	frukt-	industri-	Klub-	Kuir-	lun-
bar-							

Man-	nep-	paš-	Prefer-	Rest-	silent-	Štat-	
Manĝ-	nep-	Patr-	preĝ-	Revu-	Simil-	stel-	Vagon-
Manier-	neŭtral-	Pec-	preleg-	rezult-	Simpl-	ŝtof-	valid-
Mank-	nev-	pen-	prem-	Ricev-	Sinjor-	ŝton-	Valor-
mantel-	nigr-	Pend-	premi-	Riĉ-	sistem-	ŝtrump-	Varm-
Mar-	nivel-	Pens-	Pren-	Rid-	Situaci-	ŝtup-	vast-
Mark-	Nokt-	pentr-	Prepar-	Rigard-	Skatol-	ŝu-	vek-
marŝ-	Nom-	Per-	Pres-	Rilat-	Skrib-		Ven-
mastr-	nombr-	Perd-	Preskaŭ	Rimark-	soci-	Tabl-	Vend-
Maŝin-	nord-	perfekt-	Pret-	rimed-	soif-	tabul-	venk-
Maten-	normal-	period-	preter	Ripet-	Sol-	Tag-	vent-
material-	not-	Permes-	prez-	ripoz-	soldat-	Tamen	Ver-
mebl-	Nov-	Person-	Prezent-	River-	solv-	tas-	verd-
medi-	nu	Pet-	Prezid-	riz-	Somer-	task-	Verk-
Mem	nub-	pez-	Pri	rob-	Son-	taŭg-	Vesper-
Membr-	Numer-	Pied-	princip-	roman-	spec-	te-	Vest-
Memor-	Nun	pik-	Printemp-	Romp-	Special-	Teatr-	veter-
mend-	Nur	piik-	Pro	rond-	spedul-	tegment-	Vetur-
merit-		Plaç-	Problem-	roz-	Spert-	tekst-	Viand-
Met-	obe-	plafon-	Produkt-	rubrik-	spez-	Telefon-	vic-
metal-	objekt-	plan-	profund-	ruĝ-	spic-	teler-	Vid-
Metod-	odor-	plank-	program-	rul-	spir-	Televi-	vigl-
metr-	Ofic-	plant-	progres-		Sport-	Tem-	Vilaĝ-
Mez-	Oft-	plast-	projekt-	saĝ-	Staci-	Temp-	vin-
mezur-	Okaz-	Plej	Proksim-	sak-	Star-	Ten-	Vintr-
miks-	okcident-	Plen-	promen-	sal-	stat-	teori-	Vir-
Milit-	okul-	plend-	promes-	Salon-	stel-	Ter-	viŝ-
Minus	Okup-	Plezur-	propon-	salt-	strang-	terur-	vitri-
Minut-	Oi	Pli	Propr-	Salut-	Strat-	Tim-	Viv-
Mir-	ole-	plor-	Prov-	Sam-	streĉ-	tir-	vizaĝ-
modern-	onkl-	Plu	prunt-	San-	Stud-	tond-	Vizit-
mok-	Opini-	plum-	Publik-	sang-	stult-	Tra	voĉ-
mol-	or-	Plur-	pun-	sankt-	Sub	tradici-	Voj-
moment-	ord-	plus	punkt-	sat-	subit-	Traduk-	Vojaĝ-
Mon-	Ordinar-	pluv-	pup-	sav-	sud-	traf-	vok-
Monat-	ordon-	po	Pur-	Sci-	sufer-	trakt-	Vol-
Mond-	orel-	Poem-	puŝ-	Scienc-	Sufiĉ-	Tranĉ-	volv-
Mont-	Organiz-	poent-		Se	Sukces-	trankvil-	Vort-
Montr-	orient-	poezi-	rad-	Sed	suker-	Trans	vost-
Morgaŭ	original-	polic-	Radi-	Seĝ-	sum-	Tre	
Mort-	ost-	politik-	Rajt-	sek-	Sun-	Trink-	Zorg-
Mov-	ov-	pont-	Rakont-	sekretari-	Super	Tro	
Multi-		Popol-	rand-	seks-	supoz-	Trov-	
mur-	Pac-	popular-	rang-	Sekv-	Supr-	tru-	
muŝ-	Pag-	Por	Rapid-	Semaj-	Sur	Tuj	
muze-	Paĝ-	Pord-	Raport-	Sen		tuk-	
Muzik-	pak-	Port-	Redakt-	senc-	ŝaf-	turism-	
	palp-	Post	reg-	Send-	Ŝajn-	turist-	
Naci-	Pan-	postul-	Region-	Sent-	ŝanc-	Turn-	
naĝ-	pantalon-	poŝ-	Regul-	Serĉ-	Ŝanĝ-	tuŝ-	
Nask-	Paper-	Poŝt-	reĝ-	seri-	Ŝat-	Tut-	
Natur-	par-	pot-	reklam-	serioz-	ŝerc-		
naz-	Pardon-	Pov-	Rekomend-	Serv-	Ŝip-	Universal-	
Ne	park-	praktik-	rekt-	sezon-	ŝir-	Universitat-	
nebul-	Parol-	prav-	religi-	Sid-	ŝlos-	Urb-	
Neces-	Part-	Precip-	renkont-	sign-	ŝnur-	Util-	
neĝ-	pas-	preciz-	Respond-	Signif-	ŝrank-	Uz-	
nek							

## Patrino Dezerto

Jeremi Gishron

Almenaŭ duono de Israelo estas dezertoj, jen ĝia tuta suda parto estas la Negev-Dezerto, kaj ankaŭ pli proksime al Jerusalemo ni havas la Judan Dezerton laŭlonge de la Morta Maro. Kaj apude en la najbaraj landoj ja ankaŭ estas grandaj kaj vastaj dezertoj, la tuta Sinaj-duoninsulo, la suda Jordanio kaj la Saudi-Arabio. Por ne paroli pri la Sahara Dezerto kiu okupas preskaŭ la tutan Nordafrikon kaj ja ankaŭ troviĝas sufiĉe proksime.

Sed ankaŭ en la dezerto vivas homoj. Tie vivas la beduenoj, homoj kiuj amas la liberon pli ol ĉion alian, homoj harditaj kiuj scias sin vivteni per etaj rimedoj, aŭtentikaj nomadoj kiuj metas siajn tendojn kie eblas trovi iom da akvo kaj iomete da manĝaĵo por iliaj brutaroj. Ili estas la “popolo de la dezerto”, konataj en la araba kulturo kaj literaturo. Vere, inter la araboj la urbanismo estas nur la dua ŝtupo dum ilia evoluo.

Certe ankaŭ nia prapatro Abrahamo estis nomado kiu vivis en tendo kaj vagadis en la dezerto. Kaj ĉu ne la tuta israela popolo transvivis dum 40 jaroj en la Sinaj-Dezerto, tiu ĉi fama tiel nomata “Generacio de la Dezerto”.

Dum la Internacia Tago de la Virinoj, la 8-an de Marto, malfermiĝis fotografa ekspozicio nomata “Patrino Dezerto”. Estis la juna artistino Ligad Givon kiu montras per ĝi sian kolekton de fotoj faritaj dum sep jaroj kiam ŝi vivis kun la beduenoj por konatiĝi kun ilia kulturo kaj vivmaniero.

Ŝi naskiĝis en 1974 en Jerusalemo kaj post fino de kelkjara studo en la Fotografa Lernejo de Musrara ŝi komencis dokumentigi diversajn kulturojn en la mezoriento kaj ŝi estis

## 母なる砂漠

ジェレミ・ギシュロン（イスラエル）

イスラエルの半分は砂漠で、南部はほとんどがネゲブ砂漠です。エルサレムの近くにも死海に沿ってユダ砂漠があります。さらに近隣諸国 シナイ半島全域、ヨルダン南部、サウジアラビアにも大きな砂漠が広がっています。サハラ砂漠は言うまでもなく、アフリカ北部全域をおおっています。

そんな砂漠に人が住んでいます。何よりも自由を愛するベドウィン族が住んでいます。彼等は砂漠で鍛えられ、ささやかに生きるすべを知っています。わずかな水を手に入れ、かろうじて家畜の餌がある場所にテントを張る、生っ粋の遊牧民です。彼等は、アラビア文化とアラビア文学に知られる砂漠の民であり、アラビア人が都市で生活するようになったのは、最近のことです。

私たちの祖先アブラハムもテントで暮らし、砂漠をさすらう遊牧民でした。イスラエルの民は、良く知られているように砂漠の世代と呼ばれ、40年間シナイ砂漠で生きたではありませんか。

3月8日の国際婦人日は「母なる砂漠」と名付けられた写真展が開催されました。若い芸術家リガド・ギボン（写真右）が、ベドウィンと暮らして彼等の文化や生きざまを7年間撮影した写真を展示しています。

彼女は1974年にエルサレムで生まれ、ムスララ写真学校で数年学んだ後、中東の文化を取材し、トラビンで暮らすベドウィン族と共



invitita de beduena familio en Trabin por vivi kun ili. Post sep jaroj da laboro ŝi nun malfermis sian unuan ekspozicion en kunlaboro kun la Konrad Adenauer-Fondaĉ kaj kelkaj Kulturaj Centroj de Francujo, tiuj kiuj troviĝas en Gaza, Jerusalemo, Nabulus kaj Ramallah. La ejo por la ekspozicio estis la 30-jara domo Beit Josef kiu funkcias kiel Akademia Studejo ligita al la Dominikana Baziliko "Hagia Maria Cion" (Sankta Maria Ciono).

En la plenŝtopita ĉambro oni prezentis dum la inaŭguro beduanan muzikon, diversajn prelegojn kaj legadon de beduena poezio kaj prozo. Elstaris la prelego de D-ro Bailey kiu dum pli ol 30 jaroj esploras la beduanan kulturon. Li emfazis la malfacilajn vivkondiĉojn por transvivi en la dezerto kaj en ĝia sekega ekologio, kaj kiom harditaj tiuj beduenoj vere estas. Ekzistas multaj reguloj en ilia vivo, inter kiuj elstaras la gastigemo - la ege fama "beduena gastigemo" – ĉar tio estas vere vivkondiĉo, urĝa neceso jes eĉ bezono por transvivi en la dezerto. Se alveninte al iu loko, kaj oni ne estus invitita manĝi, trinki kaj ripozi .... kion oni do faru en tia magra natura ĉirkaŭaĉ? Kaj ankaŭ pri la gastigemo de Abraham, nia prapatro, oni povas legi en la Biblio (Genezo 18:1-8), do komuna trajto de ĉiuj en nia regiono.

Oni aŭdis en la paŭzoj inter la diversaj programeroj ankaŭ iom "akran" kritikon kontraŭ la "elstara israela demokratio" kio ne ĉiam sufiĉe gardas la rajtojn de ĉiuj siaj civitanoj, interalie la rajtojn de multaj beduenoj kiuj nun estas devigitaj vivi en "Regiono C" kio do tio estus. Alvenis interalie la konata pacaganto (pace-luktanto) Rabeno Jeremy Milgrom kiu estis elkore dankita de Ligad Givon por tio ke estis li kiu unue konatigis ŝin kun tiu beduena tribo kie ŝi poste povis vivi kiel gasto kaj lerni iliajn kulturon kaj vivomanieron,



に生活するよう招かれました。7年間の仕事の後、彼女はコンラッド・アデナウワ - 財団とガザ、エルサレム、ナブルス、ラマラにあるフランス文化センターの協力を得て、初めての個展を開きました。展示会は聖マリア教会というドメニコ修道会の聖堂に属する学術研究所、ベイト・ヨゼフ会館を会場に開かれました。

開会式は満員になり、ベドウィンの音楽と講演、ベドウィンの詩と散文の朗読が行なわれました。中でもベドウィンの文化を30年間研究しているペイリ - 博士による講演が卓越していました。



砂漠の乾燥した環境の中で生きることは困難であり、ベドウィンはそのような苛酷な環境の中で鍛えられると、彼は強調しました。彼等の生活には多くの掟があり、中でも客へのもてなしが際だっています。ベドウィンの歓待と言われ

て、良く知られています(写真上:ハーブを持つベドウィン)。それは生きるための条件であり、砂漠で生きるためには必要なのです。どこかに到着したときに、食べ物も、飲物もなく、泊まる場所もなければ、乏しい自然環境の中で、人はどうすればよいでしょうか。また、私たちの祖先アブラハムのもてなしについて、聖書(創世記18章1-8節)で読むことができますから、この地域に住むみんなに共通する特徴です。

プログラムの合間に、イスラエルの民主政治に対する痛烈な批判がありました。必ずしも国民全員の権利を十分に守っているとは言えない、とりわけC地域に住むことを義務付けられたベドウィンの人々の権利が守られていない、ということでした。ジェレミー・ミルグロムというラビ(ユダヤ教律法博士)で、有名な平和活動家(平和の闘志)がお見えにな

establante tre amikajn rilatojn kun la virinoj de tiu tribo.

Ĉar estis la Internacia Tago de la Virinoj oni ankaŭ prenis la okazon por iom plendi pri kelkaj severaj reguloj ĉe tiuj beduenoj kiuj malpermesas al siaj virinoj eliri ekster la tendon post la vesperiĝo, kiam jam estas



nokto. Pro tio maleblis interalie la ĉeesto de beduena amikino de Ligad kiun oni invitis por alparoli la ĉeestantojn dum tiu vespero. La familio simple ne permesis al ŝi eliri spite al multaj klopodoj kaj petegado. Dum la "Internacia Tago de la Virinoj" oni povus almenaŭ esperi ke ankaŭ tia afero fariĝos iom pli "libera", iom pli "mola", en ilia kondutokodo, ĉar tiuj virinoj estas tre laboremaj kaj multege kontribuas al vivo en la tribo kaj en la tendaro, kaj kune kun la DEVOJ ja devas ankaŭ veni la RAJTOJ.

Mem mi iom inklinas opinii ke ne la "individuo" estas la ĉefa ERO de nia socio sed fakte multe pli la "FAMILIO". Tion nuntempe opinias pluraj el la plej avangardaj kaj modernaj ekonomikistoj. Kaj inter la beduenoj ankoraŭ ekzistas en plena majesto la "granda familio", la tiel nomata "ĥamula", kiel baza ekonomia ERO. Do oni eble devas nomi tiun tagon ne la "Internacia Tago de la Virinoj" sed la "Internacia Tago de la Familioj", ĉar nur la virinoj kune kun la viroj ja konsistigas aŭtentikan "homareron" (kaj tio same certe validas ankaŭ por la viroj, kvankam la "Internacia Tago de la Viroj" ankoraŭ restas kiel entute neatingita evoluostupo).

りましたが、彼がリガド・ギボンをベドウィンに紹介し、彼のおかげで、彼女は招きを受け共に生活するようになったのです。彼女はベドウィンの女性と仲良くなり、彼等の文化と生活を学びました。



国際婦人の日でしたから、ベドウィン族の厳格な掟について不満を訴える機会もありました。女性が日没後にテントから出て歩くことが禁じられています。そのために、夕刻にお話を聞かせていただくよう、リ

ガドさんの友人をお招きしたのですが、お越しいただけませんでした。たびたびの要請にもかかわらず、家族は彼女の外出を許しませんでした。せめて国際婦人の日には、彼等の掟をもう少し自由に、緩やかにしていただければよかったです。その女性たちはとても働き者で、部族の生活に大きく貢献しているので、義務と共に権利も認められるべきなのです。

個人は社会の主な構成員ですが、家族こそが、もっと主要な構成員であると、私自身は考えています。同じことを、最も前衛的な現代の経済学者の何人もが述べています。ハムラと呼ばれる大家族が、ベドウィンの社会の大部分を占めていて、それが経済を基本的に構成しています。ですから、この日を国際婦人の日と言うよりは、国際家族の日と言わなければなりません。なぜなら、男女が揃ってこそ、本当に人類を構成することになるのですから。(国際男性の日はまだ達成はされてはいませんが、これは男性にも通じることなのです。)

訳：田中雅道

## EPA 事務局便り

### 第 51 回エスペラント普及会理事会開催

第 51 回エスペラント普及会理事会が 2006 年 4 月 8 日（土）午後 1 時 30 分から 5 時 30 分にかけて、亀岡市天恩郷大本本部第 3 安生館 2 階ミーティングルームにて開催され、川村前 EPA 事務局長退任に伴う新役員・事務局体制が以下のように決まった。（役員任期は 2007 年 10 月 31 日まで。順不同）

名誉会長 出口 紅  
顧問 ラインハルト・ゼルテン / リー・チョンヨン /  
ウルスラ・グラタパリア  
相談役 出口京太郎 / 藤本 達生  
理事長 鹿子木旦夫  
専務理事 田中 雅道  
常務理事 浅田 秋彦 / 前田 茂樹 / 裕 大福 /  
吾郷 孝志（新任） / 矢野 裕巳（新任） /  
斉藤 泰 / 成尾 義  
理事 牛腸 三春 / 平野 清享 / 三好 鋭郎 /  
松田 達夫（新任） / 時松 妙子 / 平井 淳 /  
斉藤 直 / 川地 善則 / 松本 朗 / 大久保 良 /  
木村 且哉（新任）  
監事 稲村 文一郎  
代議員 片桐千百合 / 川上 公平 / 坂下 正昭 / 矢野 義男 /  
木野 榮二 / 後藤 純子 / 坂本 弓代 / 森田 陞 /  
塩谷 誠 / 田淵八洲雄 / 中野渡光昭（新任） /  
小林 正幸 / 奥脇 俊臣  
事務局長 矢野 裕巳（新任）  
事務局員 山田 歌男（新任） / 中村 喜子 / 谷岡 幸佳（新任）

また、EPA 会則 17 条：講師の中に新たに講師会の項目を加えることが提案され承認を得た。

EPA 講師会は、エスペラント普及会の講師をもって構成し、この会を通して全ての講師は情報を共有し、相互啓発と親睦を深める。

所属する講師は次ページ表記の通り。

## EPA 事務局便り

### EPA 講師一覧 (あいうえお順)

1	吾郷 孝志	28	高瀬 順亮
2	井頭 ますみ	29	高野 春樹
3	伊藤 欽介	30	竹原 如是
4	大久保 良	31	田中 雅道
5	大和田 さち	32	田淵 八洲雄
6	奥原 能	33	出口 京太郎
7	奥脇 俊臣	34	長井 順一
8	鬼塚 義彰	35	長井 小文
9	加賀見 明男	36	中野渡 光昭
10	筧 邦麿	37	中原 榮子
11	鹿子木 旦夫	38	中村 勲
12	s-ro Charles Rowe	39	西永 篤史
13	川地 善則	40	西野 祥隆
14	川村 泰範	41	碓 大福
15	木野 榮二	42	平井 淳
16	木村 且哉	43	平岡 康
17	後藤 純子	44	平野 清享
18	小林 正幸	45	藤代 和成
19	小藪 資史	46	藤本 達生
20	斉藤 延	47	前田 茂樹
21	斉藤 泰	48	松永 梅男
22	坂下 正昭	49	松本 公夫
23	坂本 弓代	50	村田 孝子
24	塩崎 温美	51	森下 峯子
25	塩谷 誠	52	矢野 裕巳
26	Joel Brozovsky	53	山本 鳩江
27	曾田 美喜子	54	Rikardo Newsum

なお、講師の方で上の一覧表に掲載されておられない方は、お手数ですが、EPA 事務局までご連絡下さい。

FAX: 0771-25-0061      e-mail: officejo@epa.jp

2006 年春季エスペラント研修会開催



3月19日(日)から21日(火)にかけて、恒例のEPA主催の春季エスペラント研修会が亀岡市天恩郷大本本部第3安生館1階ホール他にて開催され、延べ30名の参加者があった。19日午前10時からの開講式に続き、

参加者は5クラスに分かれて学習を受講。21日の午前まで約20時間の学習をこなした。

21日の午後にはEPA認定級試験を開催。16名が新たに級の認定を受けた。午後2時30分からの閉会式では、越年合宿で好評だった各クラスごとの学習成果発表会をし、楽しい閉会式となった。



EPA 認定級試験合格者

3月21日付 交付(春季エスペラント研修会にて実施)

講師 斉藤 延(石川)

2級 西原 千鶴子(埼玉)/柴田 智(北海道)

柴田 ひな(北海道)/下向 悠(石川)

3級 青山 充子(東京)/上本 雄一郎(京都)

岡尾 貴子(大阪)/上月 富佐子(大阪)

下向 文子(石川)/田中 聡至(神奈川)

藤原 芳枝(大阪)/柴田 智美(北海道)

4級 四方 夏樹(京都)/宗田 敏子(大阪)

4月7日付 交付(郷内講座にて実施)

4級 上田 信(京都)

亀岡天恩郷・郷内講座のご案内

- |     |   |   |   |
|-----|---|---|---|
| 月曜日 |    | 木村且哉 rudimenta<br>(Kacuja KIMURA)<br>入門・初級クラス   | <p>2006年1月より亀岡天恩郷の郷内講座は、参加費はそのまま月曜～金曜日までのどのクラスでも「いつでも何回でも受講し放題！」となりました。</p> <p>遠近各地からのご参加を講師一同、心からお待ちしております。</p> <p>(受講ご希望の方は事務局まで)</p> |
| 火曜日 |    | 小藪資史 rudimenta<br>(Motofumi KOJABU)<br>入門・初級クラス |   |
| 水曜日 |    | 松本公夫 rudimenta<br>(Kimio MACUMOTO)<br>入門・初級クラス  |   |
| 水曜日 |    | 川地善則 komencanta<br>(Jošinori KAŮĀĈI)<br>初級クラス   |   |
| 木曜日 |    | 平岡 康 rudimenta<br>(Jakkun HIRAOKA)<br>入門・初級クラス  |   |
| 木曜日 |   | 鬼塚義彰 rudimenta<br>(Jošiaki ONICUKA)<br>入門・初級クラス |   |
| 金曜日 |  | 奥脇俊臣 paroliga<br>(Tošiomi OKUŮAKI)<br>初級クラス     |   |
| 金曜日 |  | 西永篤史 paroliga<br>(Acuši NIŠINAGA)<br>会話クラス      |   |
| 金曜日 |  | 大和田さち rudimenta<br>(Sači OOŮADA)<br>入門・初級クラス    |   |



Lasu al mi ion diri !

読者の皆様からの声を募集しています!

近況報告、提案、呼び掛け、面白いニュース、本誌への要望、写真等、なんでもけっこうですので、どしどし事務局までお送り下さい。実名、匿名、リングネーム、なんでも o.k. です!

FAX: 0771-25-0061 e-mail: officejo@epa.jp

## Lasu al mi ion diri !

Nova Vojo 誌の感想を書かせていただきます。

( 1 ) 大本の二代さまの『おさながたり』( 前田先生訳 ) を楽しみに読ませていただいています。幼いときに奉公に出たりして苦勞なされた二代さま。貧しさをものともせず、また実のお姉さまから邪険な扱いを受けながらも、それらに負けず、たくましく強く、ユーモアを忘れることなく生きてこられた生き方に心が洗われます。また前田先生による、そのエス訳が見事で感心しています。いずれ一冊の本として出版されるといいですね。

( 2 ) 『学習・文化誌』としての Nova Vojo 誌——入門や初級はもっと絵・カットが入ると読みやすくなるのでないかなと思ったりしています。あとクロスワードパズルとかも欲しいです。また読者からの投稿欄があって、読者と編集者・執筆者との双方向の心の交流がもっと欲しいなと思います。

( 3 ) 個人的な好みですが、短歌が大好きなのです。しかしそのエス訳の技術が自分には備わっていません。つきましては、その短歌の優雅なエス訳についての誌上講義とかしていただけたら有り難いです。

エルサレムでの歌祭りに備えてよいエス語の歌の献詠歌を捧げられるように念じています。

田淵 八州雄より

## 第 91 回世界エスプラント大会 EPA 参加団募集

花の都フィレンツェは、街全体が美術館。狭い範囲に高名な芸術家の作品、建物が集まっています。フィレンツェの通貨がヨーロッパの通貨となるほどの力を誇ったメディチ家が、第一線で活躍する画家、建築家たちを呼び寄せ、莫大なる富により、この街にルネッサンス芸術を開花させました。

その花の都フィレンツェで第91回世界エスプラント大会が7月29日から8月5日まで開催されます。

今大会のテーマは「言語と文化と教育 - 持続可能な発展のために」です。

エスプラント普及会では、参加団を募集しています。